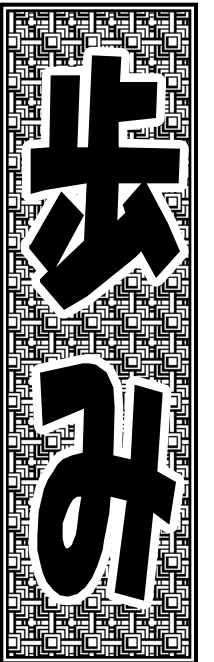


阪神支部第55回定期大会 活発な質疑討論に 18年度運動方針を確立



2018.11.5
NO.624号
全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-27
☎06-6574-8424
☎078-303-0800
全港湾は一人
でも入れます



10月6日、7日、阪神支部は第55回定期大会を神戸ホテルフルーツタワーで開催しました。

松本副委員長の開会の挨拶に始まり、議事運営・資格審査委員より報告を受け、議長に執行部より松尾大樹氏と、三郵海陸運輸分会より作馬直樹氏が選出され、執行部27名、代議員58名、傍聴52名の参加の下、大会が成立していることが確認されました。

全国港湾より松本委員長代行が挨拶に立ち、中央団交の歴史と全国港湾の新体制、以前から懸案となっていた港運協会との独禁法問題では中央労働委員会へのあつせんを申請し受理されたことを話されました。

続いて関西地方本部大野委員長が挨拶され、沖縄県知事選挙での玉城デニー氏の圧勝と安倍内閣の憲法改悪について情勢報告をされました。

次に、執行部を代表して岡山委員長による挨拶があり、参考資料をもとに「遠隔操作RTGによる雇用喪失の問題があるが、国は導入を支援している」と問題提起され、台風21号による被害と阪神港が災害復旧の緊急要請を国に要望したこと。また働き方改革による規制、法令違反の長時間労働の実態についても話されました。

来賓として、大阪労働管理議長、兵庫労連成山議長、大阪交運共闘会議山下副議長らが駆け付け、激励の挨拶を受けました。



提案を行う河野書記長

その後、河野書記長より第1議題「2017年度の主なたたかひの経過と総括(案)」、2018年度運動方針(案)の提案が行われました。第2議題「2017年度の決算報告」と「2018年度予算(案)」が廣渡執行委員より提案され、「会計監査報告」では玉盛監査委員より「正確に処理されている」との報告がありました。第3議題「秋から年末にかけての闘争方針(案)」及び支部方針具体化(案)が提案され、1日目の議事を終了し休会となりました。

2日目の質疑・討論では、9名からの発言(詳細は、一面に掲載)があり、執行部担当者からの答弁がありました。

岡山委員長より総括答弁がなされ、藤本顧問より台風による被害、コンテナ滞留問題について話された

後、すべての議案について賛成多数で採決されました。続いて特別決議として「平和・民主主義を破壊する改憲に反対する特別決議」と「労働者の健康と生命を脅かす『働き方改革』を廃止に追い込む特別決議」が採択されました。

そして、役員改選が行われ、中司祐一執行委員(オースティ物流分会)と井上友寛執行委員(神陸コンテナ輸送分会)の2名が退任し、田中英夫執行委員(オースティ物流分会)が新任されました。

その後、大会スロウガンと大会宣言を採択し、谷口副委員長より閉会の挨拶がなされ、岡山委員長の団結力ンパローで閉会しました。



「ぼくの肺には、永久に光る粉が刺さっている」と、ルポ「石の肺」で自らの経験をつづった作家佐伯一麦(かずみ)さん(59)。他の小説世界にも、アスベスト(石綿)による健康不安がにじむ。20代で電気工になり、作家業の傍ら30代前半まで現場で働いた。「ヤバイ現場」には石綿やグラスウール、コンクリート粉などが立ちこめた。1千トン輸入された石綿のうち約8割が吹き付け材や断熱材など建材に使われた。加工や切断、研磨で現場には粉じんが飛ぶ。労働者には危険性が十分知らされず、長い潜伏期間を経て中皮腫など死に至る病が発症する。国は早くから危険を認識しているが、長く製造や使用を禁止しなかった。全国各地の労働者や家族が起こした集団訴訟で、国やメーカーの責任を認める判決が続いている。先月の大阪高裁判決で国に賠償を命じた司法判断は10件連続になった。国は最高裁に上告した。アスベストはギリシャ語で「永遠」や「不滅」を意味する。それほど有用性が強調されたが、被害が深刻化した今、肺に刺さった棘を永遠にしておいていいはずがない。

「ぼくの肺には、永久に光る粉が刺さっている」と、ルポ「石の肺」で自らの経験をつづった作家佐伯一麦(かずみ)さん(59)。他の小説世界にも、アスベスト(石綿)による健康不安がにじむ。20代で電気工になり、作家業の傍ら30代前半まで現場で働いた。「ヤバイ現場」には石綿やグラスウール、コンクリート粉などが立ちこめた。1千トン輸入された石綿のうち約8割が吹き付け材や断熱材など建材に使われた。加工や切断、研磨で現場には粉じんが飛ぶ。労働者には危険性が十分知らされず、長い潜伏期間を経て中皮腫など死に至る病が発症する。国は早くから危険を認識しているが、長く製造や使用を禁止しなかった。全国各地の労働者や家族が起こした集団訴訟で、国やメーカーの責任を認める判決が続いている。先月の大阪高裁判決で国に賠償を命じた司法判断は10件連続になった。国は最高裁に上告した。アスベストはギリシャ語で「永遠」や「不滅」を意味する。それほど有用性が強調されたが、被害が深刻化した今、肺に刺さった棘を永遠にしておいていいはずがない。

近畿を直撃した台風21号 港湾に深い爪痕



9月4日、猛威を振るった台風21号の被害は、阪神港の港湾エリアに甚大な被害をもたらしました。

大阪港では暴風により倉庫テナントが吹き飛ばされ、テナントが崩れる被害が相次ぎました。

特に記録的な高潮による阪神港の被害は深刻で、六甲アイランド地区では、コンテナター

ミナル、倉庫、上屋に高潮が襲いかかり、コンテナの倒壊と流出が相次ぎ、神戸港でも28個、大阪港でも28個が流出しました。

大阪港の咲洲・舞洲の9つあるコンテナターミナル岸壁は、9月7日までにほぼ回復したものの、神戸では11あるコンテナターミナル岸壁のうち8か所は9月7日まで稼働しましたが、RC2コンテナターミナルでは、水に化学反応した貨物が発火し、長時間延焼した影響で再開が9月10日までずれ



記録的な強風でドミノ倒し状態のコンテナ

込みました。またRC6/7コンテナターミナルの被害がひどく、コンテナの倒壊、電気系統の損壊、荷役車両の水没などでめどが立たず、一部が10月1日に再開

開きましたが、全面再開には時間を要すると言われています。

六甲アイランドにある港湾倉庫の男性社員は、短時間で潮位があがり、海水が倉庫内に一気に侵入し、避難する間もなくとっさに積み上げたパレットや自動販売機により登り、潮位が下がるまで3時間孤立していたと緊迫した状況を証言しています。

こうした中、危機感を持った港湾管理者である神戸市・大阪市と阪神国際港湾会社、日本港運協会が9月14日、国土交通省に対して「激甚災害」の指定を求め、国費による港湾施設の復旧、高潮に起因する浸水対策の緊急支援を訴えまし

た。

神戸港は、阪神淡路大震災の後、291万6000TEUあった貨物が半減し、昨年ようやく292万4000TEUまで回復するに至り、23年という長期にわたり苦しい経験をしています。

それだけに風評被害による顧客の分散は絶対に防ぎたいのが本音で、復旧の長期化は避けたいところです。

貨物の損害賠償に関わる点でも責任の所在が不明確です。

また、新たな課題への懸念もあります。今後港湾でも労働人口が減少し、AIターミナル化がささやかれています。そうならば、現在進行形ではありますが、今回のように迅速に復旧が出来るのでしょうか。

なにより命を守ることを最優先し、安全確保に努めることが大切です。

この災害を今後の教訓として生かしていくため、港で働く労働者が安全安心に働く環境を構築していくためにも迅速な公的財政支援が不可欠です。

執行委員 鈴木 大介



夢洲コンテナターミナルで倒壊したRTG

名護市辺野古の米重新基地建設問題が最大の争点となった沖縄県知事選で、急逝した翁長雄志知事の遺志を継ぎ、新基地反対を掲げた玉城デニー氏が、安倍政権が全面支援した佐喜真氏に8万票もの大差をつけ圧勝しました。安倍政権の組織票を上回り、過去最多得票となった玉城氏の歴史的勝利は、「辺野古新基地ノ

知事の指示に基づき県が埋め立て承認を撤回したことに対し、安倍政権が対抗措置に乗り出してきました。これは辺野古新基地反対を掲げた玉城知事と選挙で示された県民の審判へのあからさまな挑戦です。

主張

玉城知事は安倍首相との会談で、今回の知事選で辺野古新基地反対の民意が改めて示されたと伝えればか

沖繩の民意に反し民主主義を破壊し続ける安倍政権

防衛局が、行政不服審査法に基づき「県による埋め立て承認撤回を取り消す審査請求」と「その結論が出るまで県の決定を執行停止にする申し立て」を、公有水面埋立法を所管する石井国

が、埋め立て承認の代執行をめぐる訴訟で県と和解し、審査請求と執行停止の申し立てを取り下げています。何の反省もなく再び同じ手法を使つのは、安倍政権が他に手立てがなく、追

いくら高度なシステムが導入されようと物理的に崩壊した場合、複雑な現場の復旧は人間の手では出来ないのでが現実です。今回の災害復旧も港湾労働者が昼夜を問わず復旧作業をしたことによるも



上部は吹き飛び、倒壊した倉庫テント

台北コンテナターミナル視察 ハイブリッド化ターミナル の今後の動向に注視

国土交通省は今年7月に「PORT2030」という港湾政策を発表し、その一環として神戸港湾労働組合協議会(以下、神戸港湾)は兵庫県港運協会と共に10月1日、2日にかけて台北コンテナターミナル(TPCT)を視察する事となりました。

いと決意を表明しています。神戸港湾は雇用・職域を奪つ自動化には反対であるとの立場をとっています。今回視察したTPCTはRTG(Rubber Tired Gantry Crane:タイヤ式門型クレーン)の遠隔操作を行っているだけで、本船荷役やマーシャリングについては有人で作業を行っています。台湾に於いても人材不足は日本と同様で、募集



台北コンテナターミナル
手がなかなか集まらない状況であつたのが、この室内作業をすることによって人材を確保する事ができ、労働者にとつてもより良い環境で働くことができる

とTPCTの関係者は語っていました。またコンテナの搬出入については国営であることから、一日の作業量をターミナル会社が規制しているの、ドレージ会社が混雑することはないそうです。

台湾労働者にとつて現在の職域や賃金が確保され、より安全・安心の環境になるのであればとも思われませんが、基本的には反対姿勢であり、今後の動向に注視する必要があります。

神戸港湾第41回定期大会 「自動化」と「合理化」を考える

10月3、4日にかけて神戸港湾第41回定期大会が神戸ホテルフルツフラワーで開催され、全体で81名が参加しました。

大会議長団として全港湾から鈴木代議員、全検労神戸から高木代議員を選出し、議事が進められました。質疑では「港湾の台風対策マニュアルはあるがゲリラ豪雨、集中豪雨対策は企業任せになつている。全国港湾、日港協レベルで協定化してほしい」、「行政は災害時に強い道路を作るとし

カマヤん 就労支援 ありむら港



2日目は「機械化・自動化」「合理化」と港湾労働を考える」と題し、全国港湾の玉田書記長からの講義が行われました。

玉田氏は「AI、IoT はイギリス産業革命、電気とオートメーション、コンピュータの登場に次ぐ第4次産業革命である」と前置きし、「香港、釜山、アントワープなどはターミナルを遠隔操作、シンガポール、ハンブルグ、ロサンゼルスではAGVなどで半自動化、上海、ロッテルダムではほぼ完全自動化している」と世界のコンテナヤ



神戸港湾 新幹事体制

分かるかな？
懸賞クイズ

買うときは黒く、使うときは赤くて、捨てる時は灰色のものは何でしょう？

623号の回答「音階」

4名からの応募があり、全員が正解でした。抽選により、以下4名の方々に図書カードを進呈します。

平田育穂・塚原美琴・兒玉侑嘉乃(ジャパンEXP分会)
長野雄二(大運分会)

624号の締め切り日は11月19日(月)です。ふるってご応募ください。

ド事情を説明されました。また、これまで行われたコンテナ合理化に対し、港湾労働法、産別協定を勝ち取ってきた歴史を紹介され、「体制的、合理化」への対抗は「体制」に向かう視点が必要」と提起し、全国港湾として港湾の自動化には断固反対していくという決意を述べられ、講義は終了しました。

港湾が完全自動化すると全体で7割の労働者が削減されるといデータもあり、一方で日本の人口も減少しており、自動化は急務という意見もあります。この問題を注視

し、各組織での議論が必要であると感じました。

執行委員 坪井 雄志